

小栗友一略歴

《学 歴》

- 1960年 4月 東京大学入学
1964年 3月 東京大学教養学部教養学科（ドイツの文化と社会）卒業
1964年 4月 東京大学大学院入学
1966年 3月 東京大学大学院人文科学研究科独語独文学専門課程修士課程修了 文学修士

《職 歴》

- 1966年 4月 名古屋大学教養部助手
1968年 3月 名古屋大学教養部講師
1974年 6月 名古屋大学教養部助教授
1979年 4月 名古屋大学総合言語センター助教授
1988年 5月 名古屋大学総合言語センター教授
1991年 4月 名古屋大学言語文化部教授
2003年 4月 名古屋大学大学院国際開発研究科教授（現在に至る）
（この間の併任・兼務等）
1981年 4月 名古屋大学文学部講師併任（1982年 3月まで）
1987年 4月 名古屋大学大学院文学研究科担当（現在に至る）
1998年 1月 学術審議会専門委員（科学研究費分科会）（2000年 1月まで）
1998年 4月 名古屋大学大学院国際開発研究科担当（2000年 3月まで）
1998年 4月 名古屋言語文化部長併任・名古屋大学評議員併任（2002年 3月まで）
2002年 4月 名古屋大学教養教育院統括部専任教授・同言語文化部門長・同評価専門委員会委員長兼務（現在に至る）
（この間の公費による外国出張等）
1968年 4月 ドイツ学術交流会（DAAD）の奨学金によりドイツ連邦共和国マインツ大学において研究（1970年 3月まで）
1977年 7月 ドイツ文化センター（Goethe-Institut）の招待によりGoethe-Institut Berlinの講習会に参加（1977年 9月まで）
1983年 7月 ドイツ学術交流会（DAAD）の招待によりドイツ連邦共和国ケルン大学において研究（1983年 9月まで）
1996年 8月 ドイツ学術交流会（DAAD）の招待によりドイツ連邦共和国ケルン大学において研究（1996年 9月まで）

小栗友一略歴

《学会活動・外部評価委員》

- 1993年4月 日本独文学会東海支部長（1996年11月まで）
1999年12月 東京大学教養学部前期課程授業外部評価委員（2000年3月まで）

《受賞歴》

- 1974年11月 ヴォルフラム・フォン・エッセンバハ（著）『パルチヴァール』（加倉井肅之
他と共訳）（郁文堂）により第11回日本翻訳文化賞受賞

著 書

- 練習問題中心のドイツ文法（共著、伊東泰治） 1976 三修社
悪魔・魔女・死の伝説（共著、P. Schwarz） 1980 第三書房
ドイツおもしろ草紙（共著、P. Schwarz） 1981 第三書房
中高ドイツ語小辞典（伊東泰治他と共編著） 1991 同学社
アオフトクト ドイチュ（共著、K. von Heuduck） 1999 同学社
新訂・中高ドイツ語小辞典（伊東泰治他と共編著） 2001 同学社

論 文

- ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデ研究（1） 初期の歌（単著）
1967 名古屋大学教養部紀要11
Der ältere “Spervogel”研究（単著） 1967 日本独文学会『ドイツ文学』38
シュペルフォーゲルについて（単著） 1968 名古屋大学教養部紀要12
Das Geschichtsbild des Rolandsliedes（単著） 1970 日本独文学会『ドイツ文学』45
SigûneとSchônatulander（単著） 1971 名古屋大学教養部紀要15
「ヴィレハルム」冒頭の祈り（単著） 1976 名古屋大学教養部紀要20
「オレンデル」について（単著） 1980 名古屋大学総合言語センター『言語文化論集』1
ヴォルフラムの叙情詩 TageliederとWerblieder（共著、伊東泰治他）
1983 『言語文化論集』4 - 2
ヴァルターのラインマル＝パロディー（単著） 1983 東海ドイツ文学会『ドイツ文学研究』15
ナイトハルトのミンネザング＝パロディー（単著） 1986 『言語文化論集』7 - 2
『ヴィレハルム』における騎士像 『パルチヴァール』と対比しつつ（単著）
1987 『ドイツ文学における古典と現代』第三書房
『パルチヴァール』と『ペルスヴァール』 主人公の少年時代は両作品においてどのように描かれているか（単著）
1990 科研成果報告書『フランス中世騎士道物語のドイツにおける受容と翻案』
『ローラントの歌』から『ヴィレハルム』へ 「寛容」の問題をめぐって（単著）
1991 日本独文学会東海支部『ドイツ文学研究』23
「ゴーヴァアンと小袖姫」と「ガーヴァーンとオビロート」 ヴォルフラムのクレチアン受容について（単著） 1992 『言語文化論集』13 - 2
白鳥の子の物語 中世ラテン語の『ドロパトス』とその翻訳（単著）
1998 日本独文学会東海支部『ドイツ文学研究』30

翻 訳 書

- ヴォルフラム・フォン・エッシェンバハ『パルチヴァール』（共訳、加倉井肅之他）（第11回日本
翻訳文化賞受賞） 1974 郁文堂
ディールク・シュトゥッケンシュミット『ドイツのフォークロア 文学の背景としてのわらべう
たからアングラまで』（共訳、塚部啓道他） 1975 南江堂

翻 訳

- シュペルフオーゲル 『格言詩』 1967 ガーデン会 『飛行』 1
- パルシファル (共訳、加倉井肅之他)
- 第7巻 1967 名古屋大学教養部紀要11
- 第8巻 1968 『ドイツ文学研究』 5
- 第9巻 1968 名古屋大学教養部紀要12
- 第10巻・第11巻 1969 名古屋大学教養部紀要13
- 第12巻・第13巻 1970 名古屋大学教養部紀要14
- 第14巻・第15巻・第16巻 1971 名古屋大学教養部紀要15
- ヴォルフラム・フォン・エッシェンバハ 『ヴィレハルム』 (共訳、伊東泰治他)
- 第一巻・第二巻 1973 名古屋大学教養部紀要17
- 第三巻 1974 名古屋大学教養部紀要18
- 第四巻 1975 名古屋大学教養部紀要19
- 第五巻 1976 名古屋大学教養部紀要20
- 第六巻・第七巻 1977 名古屋大学教養部・名古屋大学語学センター紀要21
- 第八巻 1978 名古屋大学教養部・名古屋大学語学センター紀要22
- 第九巻 1979 名古屋大学教養部・名古屋大学語学センター紀要23
- ヴォルフラム・フォン・エッシェンバハ 『ティトゥレル』 (共訳、伊東泰治他)
- (1) 1980 『言語文化論集』 1
- (2) 1980 『言語文化論集』 2 - 1
- ナイトハルトの叙情詩 (共訳、伊東泰治他)
- (その一) 1984 『言語文化論集』 5 - 2
- (その二) 1985 『言語文化論集』 6 - 2
- (その三) 1986 『言語文化論集』 7 - 2
- ローエングリーン (中世ドイツ叙事詩)
- (1) 1993 『言語文化論集』 15 - 1
- (2) 1994 『言語文化論集』 15 - 2
- (3) 1994 『言語文化論集』 16 - 1
- (4) 1995 『言語文化論集』 16 - 2
- (5) 1995 『言語文化論集』 17 - 1
- (6) 1996 『言語文化論集』 17 - 2
- (7) 1997 『言語文化論集』 18 - 1
- (8) 1998 『言語文化論集』 19 - 1
- (9) 1999 『言語文化論集』 19 - 2
- (10) 1999 『言語文化論集』 21 - 1